

令和8年10月19日

保護者の皆様

江東区立越中島小学校
校長 大木 直之

校内研究通信「かもめっ子」

【第1回】なぜ今、越中島小の先生たちは授業を変えているのか？ ～「こどもが主人公！」の学びを目指して～

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、来月11月20日(金)に、本校では2年間の授業改善の成果を発表する校内研究発表会を開催いたします。今回の発表会は江東区の小学校の教員や教育関係者を対象とした専門的な研究会となるため、保護者の皆様の参観はございません。

しかしながら当日は、受付や案内など運営面で本校 PTA の皆様に多大なご協力をいただきます。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

「学校の中で先生たちがどんな研究をしているのか」「研究発表会とは何を目指しているのか」保護者の皆様から見えにくいこの校内研究ですが、すべては「目の前のこどもたちの未来のため」に取り組んでいる教育活動です。

そこで本日から全5回にわたり、本校が取り組んできた授業改革の歩みと、ご家庭でも共有していただきたい目指すこどもたちの姿を分かりやすくお伝えしてまいります。

1 なぜ今、授業を変える必要があるのか？

私たちが生きるこれからの時代は、変化が激しく予測が困難な VUCA（ブーカ）の時代と呼ばれています。正解が一つではない複雑な課題が、次々と押し寄せる社会です。

これまでの学校教育では、先生が細やかな指導計画を用意し、こどもたちがスムーズに理解できるよう手厚く導くスタイルが大切にされてきました。しかし、用意された道筋をたどるだけの学びでは、これからの変化の激しい社会を自らの力で切り拓いていく力を育むには限界があります。

そこで私たちは自分自身に問いかけました。「私たちは『良かれと思って手厚く準備し、先回りしすぎる』ことで、こどもたちがじっくり考える余白を小さくしていなかったのだろうか？」ここから、越中島小の大きな挑戦が始まりました。

2 本校の研究主題

本校では、令和7・8年度の2年間にわたり、次の研究主題を掲げて授業改善を進めてまいりました。

研究主題「こどもが主人公！自ら学びをデザインするかもめっ子」
～つながりの中で個が豊かに学ぶ力を伸ばす授業改善～

「学びをデザインする」とは、こどもたちが人から言われて勉強するのではなく、「自分は今、何を知りたいのか（問い）」「どうやって調べたら解決できるか（計画）」を自分で考え、行動し、振り返る姿のことです。

先生たちは手厚く教え導きたい気持ちを一旦抑え、こどもを心から信じて委ねる勇気をもつこと。そして、こどもたちが失敗を恐れずに挑戦できる温かい環境をつくること。これこそが、江東区教育委員会が掲げる基本理念「みんな、かがやく！」の実現につながると信じています。

3 ご家庭と共に育みたいかもめっ子の未来

校内研究は、単にテストの点数を上げるためだけの取り組みではありません。学校とご家庭が手を取り合い、こどもたちが自信をもって自立していくための土台づくりです。

保護者の皆様にも、ぜひ越中島小が目指しているこの「こどもが主人公！」の姿を知っていただき、ご家庭での「今日学校でどんなこと疑問に思った？」「自分でどうやってやってみる？」といった会話のきっかけにしていいただければ幸いです。

今回は、学校全体で取り組んでいる具体例（全校共通の「越中島小学習スタイル」やタブレット端末の使われ方）についてご紹介いたします。ぜひ楽しみにお読みください。

【全5回 連載予定】

第1回（今回）なぜ今、越中島小の先生たちは授業を変えているのか？

第2回 学校で広がっている新しい学びの形

第3回 試行錯誤と葛藤のドラマ

第4回 数字と姿で見てきたかもめっ子の成長

第5回 11月20日研究発表会を迎えるにあたって